

第1章

トーナメントの申し込み方

1. トーナメントの資料を手に入れる方法

公式トーナメントや公認ジュニアトーナメントについては、関東テニス協会や各都県テニス協会から年間スケジュールが発表されます。各都県のテニス協会に問い合わせてもスケジュールを教えてください。

各トーナメントに関する申込要項は、申込時期になるとテニスクラブ、学校などに送られてきたり、指定されたテニスショップ、大会主催者のホームページなどで入手することができます。テニス雑誌に広告が出たりすることもあるので気をつけておきましょう。主催者である協会、クラブ、学校、市町村の担当者に直接請求して得ることもできます。

早めに主催者に問い合わせて入手方法を確認しましょう。

2. エントリー申込書の記入方法

大会要項の注意書きをよく読んで、正しく記入しなければなりません。名前、住所、所属、性別、生年月日（これはあなたの出場年齢区分を決める上で大切）を正確に記入します。

公認ジュニアトーナメントに申し込む場合には、関東テニス協会に登録した個人登録番号を正しく記入する必要があります。

以前のトーナメントでの成績の欄については、大会名、何回戦まで進出したか、誰に負けたかなど不正のないように正しく記入しましょう。このデータは、あなたが出場しようとするトーナメントにおいて主催者がドローを作成する際の参考資料となる場合があります。親やコーチに申込書を書くのを頼むのではなく、自分自身でやりましょう。

この申込書と、必要ならお金を同封して郵送するか、直接持参して申し込みます。

3. どの区分にエントリーするか

ジュニアの大会は普通、12歳以下、14歳以下、16歳以下、18歳以下と分かれています。

年齢の基準は、1月1日から12月31日までです。

通常は、自分自身の年齢区分にエントリーします。しかし、あなたが、普通の人より上手で、より強い上の年齢区分の人と試合をしたい場合には、上の年齢区分にエントリーしてもかまいません。ただし、グレード③の都県ジュニア選手権大会以外の大会とグレード④の大会については、実年齢区分より2区分以上上の種目（例：14歳以下の選手が18歳以下、12歳以下の選手が16歳以下・18歳以下）に出場してもポイントはつきませんので注意して申し込みしましょう。

4. ダブルエントリーについて

ダブルエントリーとは、大会要項に記載されている本戦日程が重複している2つ以上の

大会に申し込んでいる状態を意味します。予選及び予備日は本戦の日程とはみなしません。大会要項で、本戦と予選の日程を区別して発表していない大会はすべて本戦の日程となります。本戦が1日でも重複している大会にエントリーした場合は、どちらかを選んで出場してください。出場する大会を決めたら、欠場する大会の主催者に欠場大会の本戦初日の前日(17:00)までに「欠場届」を提出してください。本戦が重複している2つ以上の大会(本戦)に出場したり、欠場届を提出しないと両大会(2大会以上重複している場合はそれらすべての大会)とも予選ポイントも含め「0ポイント」となります。(ランキング対象大会には加えない)シングルス、ダブルスを含み1日でも重なっていたら「0ポイント」になりますので注意しましょう。

実際に行われた本戦日程がたまたま重複せずに、両大会とも支障なく試合ができた場合でも、大会要項の日程が重なっていれば「0ポイント」となります。また、出場しなくても、欠場届を出さなかった場合は出場したとみなし「0ポイント」となります。

例外として、

- ① 日本テニス協会・関東テニス協会主催のジュニアトーナメントと公認大会が重複した場合には、出場した両大会ともポイントが与えられます。
- ② 公認トーナメントと各都県高体連、中体連(中テ連)の主催するポイント対象大会が重複した場合は両大会のポイントが与えられます。

※ 参加料の取り扱い(返金等)については、事前に主催者に確認しておきましょう。

※ 大会を欠場する場合は必ず主催者へ文書(欠場届)を提出しましょう。欠場届には、氏名、登録番号、種目とドロー番号、所属団体名、電話番号、欠場理由を明記してください。

5. 大会の欠場について

大会に参加できなくなった時は、必ず主催者にその理由を明記して欠場届を提出しましょう。この場合には、相手選手のWO(ウォークオーバー)による不戦勝となります。

なお、必ず大会主催者に連絡してください。関東テニス協会では受け付けいたしません。

6. ダブルスの申し込み

シングルスと同時にダブルスのトーナメントが開催される場合も少なくありません。

ダブルスは、さらに1つの試合を提供してくれます。また、ダブルスはペアの試合であるため、あなたのパートナーに対する思いやりや感謝の気持ちについて学ぶことができます。

エントリーに際しては、申し込み要項に合うパートナーを決めて申し込みましょう。同じ所属で同じ年齢区分の人とペアを組む場合は問題がありませんが、トーナメントによっては他の所属や他県の人とペアを組む場合について規定があることがあるので、要項をよく読んで、誤りのないように申し込んでください。公認ジュニアトーナメントではシングルスとダブルスを異なる年齢区分に申し込むことはできません。シングルの年齢を繰り上げて出場した場合は、ダブルスも繰り上げた同年齢区分の種目に出場しなければなりません。

7. 締切日に遅れないように

締切日を見て、期日に間に合うように直接届けるか郵送しましょう。いったん申し込みが締め切られたら、エントリーすることはできません。

第2章

トーナメントへ出場するための準備

1. 予定の確認

試合の予定日に他の行事や約束がないことを確かめておきます。家族の予定もチェックしておきましょう。

2. 試合の時間に間に合うように

あなたの試合がいつあるのかを知る必要があります。前もってスケジュールが知らされない場合には、普通、あなたの年齢区分の開始時刻はエントリー申込要項、または添付の資料に記されています。試合前に発表される場合には、それにより確認しておきましょう。

もし、試合時刻に遅れたり、行けなかった場合には、ノーショウになります。プレイヤーがノーショウになる場合の時間（通常は1分でも遅れるとだめ）は、トーナメントレフェリーの判断によりなされます。各トーナメント特有のルールは、トーナメント会場で掲示されるか、トーナメント申込要項に書かれています。

ジュニア委員会では、このノーショウの適用をできる限りしたくないと考えています。しかし、トーナメントを計画通り進行するため、また、待っている相手や他の出場者に公平を期すためには、このルールは必要です。

3. 天 候

雨が降ったり、天気が不確かな場合にも会場に集合して指示を待つのが普通です。トーナメントによっては、電話での問い合わせができる場合もありますが、特別な指示がない限りは会場に集合するのが原則になっています。

天候が疑わしい場合には、中止と思わないで下さい。雨は場所によって降らないこともありますし、雨がやむとすぐできる会場もあるからです。大ていのトーナメントは、可能な限り試合を予定通り実施しようとしているものです。

4. 会場の確認

会場の住所や交通手段を確認して、トーナメントの会場にはどのように行ったらよいか注意深く調べておきましょう。休日と平日のダイヤが異なるのが普通ですから、開催日のダイヤを調べるのが大切です。車で行く場合には渋滞を考えるのは言うまでもありません。

5. 食 事

会場または会場の近くに食堂がある場合にはそこで済ますこともできますが、わからない場合には弁当、飲物を用意して行きましょう。

6. 熱中症対策

夏のジュニア大会・学校大会は、きびしい暑さの中で実施されています。体調をくずさないためにも、こまめな水分補給と氷の準備をしてください。また、待機しているときは日陰で過ごすようにしましょう。

具合が悪くなったら、無理をせずレフェリーを呼びましょう。

7. 緊急の場合の準備

テニスウェアの予備、ラケットの予備、救急用品、その他自分が必要と思うものを用意しておきましょう。交通費、食事、電話などのためのお金も用意しておく必要があります。

第 3 章

トーナメント用語

1. 公式トーナメントと公認ジュニアトーナメント

公式トーナメントとは、公に認められている団体が主催するトーナメントの意味で、そのトーナメントの記録が選手選考などの正式な資料となります。関東テニス協会にとっては、(財)日本テニス協会、高等学校体育連盟、中学校テニス連盟と関東テニス協会主催のトーナメントを指します。

ジュニアトーナメントは高校大会(18歳以下)、中学大会(15歳以下)、小学大会(12歳以下)の区分のほかに、18歳以下、16歳以下、14歳以下、12歳以下、と年齢区分されています。その中でトーナメントの記録が関東ジュニアコンピューターランキングのデータになるものを関東テニス協会の公認ジュニアトーナメントと言います。公認ジュニアトーナメントには、(財)日本テニス協会や関東テニス協会が主催するトーナメントと学校の

連盟が主催するトーナメント、都県テニス協会やクラブなどが主催するトーナメントのうち、関東テニス協会が承認したトーナメントがあります。クラブなどが主催するトーナメントは、トーナメントディレクターが関東テニス協会に公認を申請して、関東テニス協会から正式に承認されたときに公認ジュニアトーナメントとなります。

2. ランキング

関東テニス協会ではジュニアコンピューターランキングを年間数回発表しています。これはプレイヤーが出場した公認ジュニアトーナメントにおける成績をポイントとして計算して決めています。高校、中学、小学校の全国大会、関東大会と都県大会(シングルスベスト 32、ダブルスベスト 16 より) も含みます。

ランキングは過去の成績に対して与えられるものですが、これから行われるトーナメントの選手選考などの重要な資料となります。

ランキングは、1年間を基準とした切れ目のない通年のランキングで、出場した大会で獲得したポイントの上位 5 大会を合計したもので評価されます。大会に出場しポイントを取得した後、1年経過して同じ大会が行われると前年にその大会で取得したポイントは消えます。

ランキングは、年齢、種目に関係なく、18歳以下すべてのジュニアプレイヤーを対象にランキング順位をつけて発表されますが、関東テニス協会ホームページで確認する際は、年齢別、都県別などに抽出して見ることができます。

3. シード選手

過去の記録により判断されたシード選手は、そのトーナメントにおけるトッププレイヤーのうちの 1 人として考えられています。

シードする理由は、トッププレイヤー同士が早い回戦で当るのを避けるためです。

普通、ジュニアトーナメントではシードするのに十分な成績の記録がある場合は少なく、実際に未知の選手が番狂わせを演ずることも少なくありません。

ドローを作成するときには、4人に1人をシード選手として選考します。関東テニス協会主催の大会では、選手選考のコンピューターランキングに従ってシード選手を決定しています。

公認大会では、基本的にコンピューターランキングを参考にしてシードを決めています。

4. ドローとドローの作成方法

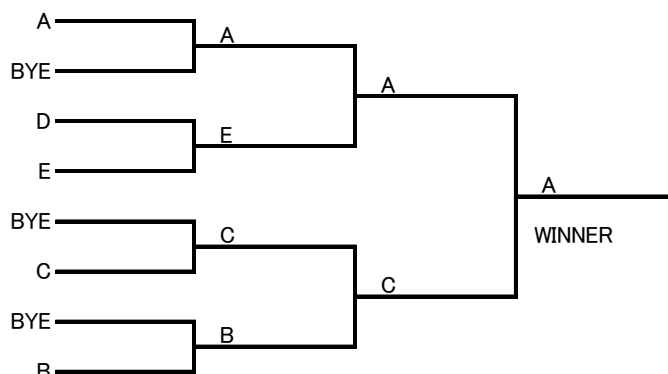
トーナメントの全参加者およびその親達がドローについて正しく理解することが大切です。

エントリーの締め切り後、トーナメント委員会は申込者の記録をチェックし、ランキングをチェックしてそのトーナメントの選考基準に従って出場者を選びます。その中からさらに“シード選手”をみつけ、日本テニス協会のルールによってシード選手の位置を決めます。

シード選手が書き込まれた後に残りの参加者が抽選でドローに記入されていき、ドローが作成されます。

参加者数により、あるプレイヤーは1回戦で対戦相手がいないこととなります。これを

バイ (BYE) といいます。このときバイを与えられるプレイヤーは、日本テニス協会のルールによって決められます。バイのあるシングルストーナメントの例を以下に示します。



5. トーナメントレフェリー、SCU (ソロチェアアンパイア)、ロービングアンパイア

トーナメントレフェリーはトーナメントの期間中、プレイに関して一切の公式な決定を下すのが任務です。起こった疑問や問題は、レフェリーに判断をあおぎます。

アンパイアのつかない (セルフジャッジの) 試合では、ロービングアンパイアがおかれます。ロービングアンパイアは担当するコートでトーナメントレフェリーの仕事を代行します。ロービングアンパイアでは解決できない問題は、最終的にはトーナメントレフェリーが判断します。

SCUの仕事は次の通りですが、注意されたりオーバールールされることのないようにしましょう。

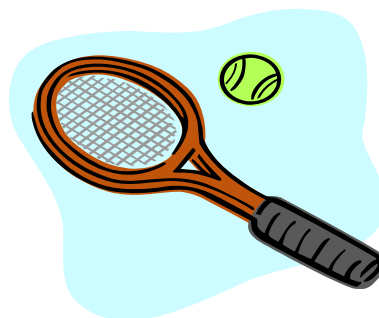
- 1) 不正確な判定をオーバールールする。
選手がグッドのボールをアウト (またはフォールト) とコールして、それをオーバールールされると失点となります。
- 2) コールが正しく、大きな声で、または正確なジェスチャでなされているか監視する。
- 3) フットフォールトをコールする。
- 4) 時間の管理をする。
コートの入場時間、ウォーミングアップ時間、連続的なプレイ、その他ルール上の時間の管理をします。
- 5) コーチングの監視。
個人戦では、コートに入ったらコーチングを受けることはできません。選手はもちろん、コーチや父兄の方もこれを認識しておいてください。
- 6) 服装、用具等のチェック。
- 7) スポーツマンシップに反する行為を監視する。
- 8) ペナルティ規定の適用

6. ペナルティー規定

関東テニス協会では、1996年の関東ジュニアテニス選手権大会からペナルティー制を導入いたしました。これは、ジュニアの皆さんがコート上の技術だけではなく、あらゆる面で高いレベルにあってほしいとの願いからです。決して罰することを目的としたものではないことを理解して、ペナルティーが適用されることがないようにしましょう。

関東テニス協会ジュニアテニストーナメント ペナルティー（罰則）規定

1. この規定は関東テニス協会に個人登録している選手全員が対象です。
2. この規定が適用されるトーナメントは次の通りです。
 - ① 関東テニス協会および各都県テニス協会が主催するジュニアトーナメント
 - ② 関東テニス協会公認のジュニアトーナメントのうち、大会要項に本規定の適用が明記されているもの
3. この規定は「ジュニアプレイヤーのテニスハンドブック」（関東テニス協会発行）に掲載されている内容に従います。
4. 選手に対するペナルティーは「ケイコク」（警告）と「シッカク」（失格）です。
「ケイコク」：前項3に違反する言動、行為があった場合
「シッカク」：大会期間中「ケイコク」を3回受けた場合
：違反した言動、行為が特に悪質であると判断された場合は直ちに「シッカク」になります。
5. このペナルティーは試合中はもちろん、大会期間中、選手に対して宣告されます。
6. 宣告はレフェリーが行います。（レフェリーに任命されたアシスタントレフェリーによって宣告されることもあります。）事実関係については、レフェリーの判断が最終となります。
7. 宣告されたペナルティーについては、その翌日にトーナメント会場内に氏名と内容が公表され掲示されます。
8. 「シッカク」になった選手は、
 - ① コンピューターランキングの獲得ポイントが0ポイントになり、失格となった大会がランキング対象大会5大会の1つに加えられます。
 - ② 関東テニス協会ジュニア大会運営委員会において1年間の出場停止になる場合があります。



第4章

トーナメント会場についたら

1. 受付とドロウのチェック

会場に着いたら、試合ができる服装に着替えて受付をしましょう。親やコーチにしてもらわないで自分自身でやりましょう。参加費が未納の場合には、試合の前に払っておきます。トーナメントが公認試合である場合には、関東テニス協会に登録しているジュニアプレイヤーズ登録証を提示する必要があります。

ドロウ又は掲示を見て、だれが相手で、何時に試合があるのかチェックしておきましょう。もしパイを得たら、1回戦はないので待つことになります。

相手が全く会場に来ない場合にはウォークオーバーとなり、あなたの勝利となります。これは非常に残念なことです。なぜなら、あなたは試合への準備をしており、全くプレイをしないで勝ちをもらうだけだからです。他の人が1回戦をやっている間、非常に長時間待たなくてはならなくなります。

- ・RET(リタイア) … ケガ・病気などの理由で試合を途中棄権したとき
- ・DEF(デフォルト)… 試合前・試合中にコード違反をし失格したとき
- ・WO(ウォークオーバー)…相手選手の遅刻、出場辞退などで不戦勝になったときおよび対戦する両選手が現れなかった場合
- ・No Show(ノーショウ)… 決められた時刻に現れなかったことを意味します

2. 試合の進行

試合は、オーダーオブプレイのボードを使って進行する大会がほとんどです。下記のような形になっています。

2段目の順番になったら、ボールを取りに競技本部に行き、自分の試合が予定されているコートで待機しましょう。前の試合が終わったらすぐにコートに入って試合を始めます。(ジュニアの大会では、試合前のウォーミングアップの時間は3分くらいです。すぐに試合を始められるように準備をしておきましょう。)

オーダーオブプレイ

	コート 1	コート 2	コート 3
START AT 9 : 00	18B S 1R 1. 関東 VS 2. 東京	16G S 2R 15. 神奈川 VS 16. 千葉	14B S QF 16. 埼玉 VS 17. 群馬
次の試合	12B S S F 1. 栃木 VS 9. 茨城	18GD F 1. 山梨・甲府 VS 32. 横浜・川崎	14GD 2R 25. 柏・松戸 VS 28. 浦和・大宮
NOT BEFORE 12 : 00	16G S 3R 17. 新宿 VS 24. 久我山		

ST(START AT) : 試合開始時刻 B : 男子 G : 女子 S : シングルス
D : ダブルス R : ラウンド (回戦) QF : 準々決勝 SF : 準決勝
F : 決勝 NB(NOT BEFORE) : 前の試合が終了しても表示した時刻までには試合を始めない。

Follow By : 待機

3. 試合までの待機

多くのジュニアトーナメントでは、第1日と第2日は日程がきつく、忙しいのが普通です。受付のとき、あなたの試合の予定時刻を知らされますが、予定時刻になっても順番が来ないといってトーナメントの主催者を困らせないようにしましょう。役員から呼び出されるまで近くで待機するようにしましょう。

もし、相手が来ない場合には、ウォークオーバーになるでしょう。しかし、この決定はレフェリーが行います。それに対して選手が強く主張してはいけません。

トーナメント会場では、練習するコートがあるのはまれです。もし空いているコートがあっても、トーナメント役員の許可をもらわないで使用してはいけません。

食事、その他で会場を一時離れるときは、必ず競技進行係に申し出てからにしましょう。その間に試合に呼び出され、だれもあなたを見つけ出せないとノーショウとなり、相手選手のウォークオーバーとなります。

4. ジュニアの保護者、コーチの方へ

ジュニアトーナメントを計画通り進行させるのはむずかしいことです。大会主催者はベストをつくしますが、限られた施設で試合を行うので、なかなか計画通りに行かないことが多いものです。

ジュニアプレイヤーは試合を待つ間、友人をつくったりして案外気楽にふるまえるものですが、親達は気が休まらないことでしょう。あなた自身のために本を持参して読むとか、親同士で雑談するとかの方法で心の平静を保つよう努力してください。親達がトーナメント委員会にクレームをつけたりすることは、ゲームの進行に混乱を引き起こすだけでなく、子供たちにも影響を及ぼすことになるからです。

ジュニアトーナメントは子供同士の試合であり、親達の試合ではないことを認識して欲しいものです。

第5章

試合の合間の行動

1. 試合の最後のポイントが終わったら

試合に負けたとき、こそこそ立ち去ったり、ふくれたりしてはいけません。

あなたの試合のためのアンパイアに握手をしたり、役員やお世話になった人々に感謝しましょう。

スコアボードを元にもどし、勝者がスコアを報告して使用したボールを返します。

勝った場合には、次の試合の予定をチェックします。

ダブルスの試合にも出場している場合には、このスケジュールのチェックもします。

2. 連続して試合を行う場合

トーナメントの役員が試合をするように言ってきたときに、その試合をしなければなりません。

ちょうど試合が終わったばかりの場合には、次の試合をする前に規定の休憩時間をとることができます。しかし、天候や進行の都合で役員が決定したときは、休憩時間が短くなることもあります。

代表的なジュニアトーナメントの早いラウンドでは、1日に3セットマッチでシングルス、ダブルス合わせて3試合行うことは運営上よくあることです。

3. 辛抱強く待つこと

次の試合を待つ間、他人のプレイをよく観察しましょう。しかし、プレイ中の人のじゃまをしてはいけません。

読書をしたり、次の試合にそなえて体を動かしたり、ボードの設備がある場合には板打ちをしたり、友人と談笑しながら時間を過ごすのもよいでしょう。ただし、路上などコート外でボレーボレーをしたりするのは危険です。

次に当たる相手がプレイしている場合には、よく観察しましょう。

トップシードの選手をよく観察しましょう。ジュニアトーナメントの意味ある点の1つは、より上手なプレイヤーのプレイを観ることができることです。

昼食に出かけるときには、必ず競技進行係に申し出てから出かけ、役員があなたを探しまわることがないようにしましょう。

食べたと感じられる程度の軽い食事にし、油こい食事はしないようにしましょう。

施設を大事に使用してください。あなたは、ビジター（お客）であることを忘れないようにしましょう。あなたの持物を放置したり、クラブハウス内を走ったりしてはいけません。飲物の空かんやゴミは決められたところに捨てましょう。

4. その日に会場を去る前に

競技進行係でチェックしないで会場を去ってはいけません。既に発表されている日程が変更される場合もあるので、次の日のスケジュールを確かめ、何時に来たらよいかを確認しておきます。

負けた場合には、役員の人たちに”ありがとうございました”とあいさつして帰るようにしましょう。

5. 自分のことは自分で

自分自身のめんどろは自分でみるものです。たとえ親が会場について来ていても、試合時間の確認、スコアの報告、ボールの返却、受付などすべての細かいことまでをめんどろみるのはあなた自身なのです。

ジュニアトーナメントはあなたのためにあるのであって、親のためにあるものではありません。

試合中に口論となった場合でも、けっして親を連れて来てはいけません。ルールを学び、自分自身の意見をはっきりのべることもトーナメントでの経験の大きい成果です。

問題が起こった時にも、親を通すのではなく直接、役員やレフェリーに話をしましょう。

親はあなたに余りにも近いため、あなたの側に立ちやすく、すべてのプレイヤーに公平にしてスムーズにトーナメントを運営しようとしている役員の苦労を忘れがちになるものです。

第6章

よく起こる問題とその解決

1. エントリーを忘れること

トーナメントはエントリー締切日を厳密に守りますのでその締切日を確認してください。

全国大会や関東大会のような大きなトーナメントでは、各地域または各都県協会の推薦が必要で、人数に制限があります。したがって、正しく申し込んだ人のうちから、成績により推薦された人が出場可能となります。

一度ドロウが成立した後に出場できる場合があるとすれば、上位の人が棄権したときなどに、その代りに出るのみです。

2. 1日に多すぎる試合

この文句を言うなら、エントリーする種目を減らしましょう。1日に、シングルス、ダブルス合せて3セットマッチ3試合の試合数は運営の都合上ありえます。

ラウンドが進行するに従って、手ごわい相手になることを考えて、エントリーする際に覚悟しておくことです。

3. 交通機関の遅れ

公共の交通機関の事故は、遅刻の理由となります。しかし、ウォークオーバーはトーナメントレフェリーの判断によって決定されます。公共の交通機関の事故にあった場合には、早い段階で連絡し、駅で発行する証明書を持参すれば、可能なかぎり都合をつけてくれることもあります。

4. ドロウやシードが不公平

新人の多くは、なぜ、自分がトップシードの人と1、2ラウンドで試合をすることになるのかわからないものです。ドロウはルールに従って抽選で決定されていくものです。ドロウは公平に作成されるものであることを知れば、この文句は出ないでしょう。

5. 相手をごまかしている

無意識に誤ったコールをすることはだれにでもあるものです。相手が正直でないコールを続けていると感じたら、相手に伝えた後、静かにトーナメントレフェリーにアンパイアをつけてくれるように頼みましょう。

このような問題は、起こったときに報告すべきで、試合が終わってから文句を言ってもはじまりません。

6. 相手の親や関係者による妨害

あなたは、それらの人に妨害しないように頼む権利があります。もし続くなら、トーナメントレフェリーに困っていることを伝えましょう。

7. 騒がしい

正当な理由がある場合には、トーナメントレフェリーに観衆を静めてくれるように頼みましょう。

8. 緊急事態で次のプレイができない場合

次のラウンドをプレイできないことが明らかとなるときには、すみやかに大会本部に届けなければなりません。

第7章

コンピューターランキング

1. 公認ジュニアトーナメントのグレードについて

公認ジュニアトーナメント等のポイント対象大会にはトーナメントでの成績をポイントで計算するためにグレードがつけられます。

グレードは年頭に発表され、各大会の要項にも記載される基本グレードが1から4まであります。ランキングは、関東テニス協会ホームページ(<http://www.kanto-tennis.com>)で確認できます。携帯電話からも確認できます。

1) 基本グレード

- グレード1 : (財)日本テニス協会主催の全国大会・小中高の全国大会
- グレード2 : 関東テニス協会主催の大会・小中高の関東大会
- グレード3 : 都県テニス協会主催でクローズの大会と小中高の都県大会
(シングルスベスト32、ダブルスベスト16より対象)
- グレード4 : 公認大会
 - A 地域性、時期などを考慮し、ドロー数がシングルス32、ダブルス16以上でかつシングルス32、ダブルス16から3セットマッチで行うことを原則とした大会
 - B ドロー数がシングルス16、ダブルス8以上でかつシングルス16、ダブルス8から3セットマッチで行うことを原則とした大会
 - C その他の大会

2) グレードによるポイントの考え方

18歳を最終の目標と定め強化していくために、すべてのジュニアが18歳以下のポイントを持つようにします。また、多くの大会に挑戦してもらい、それをポイントに反映させていくため、5大会の加算式となっています。(6大会出場した場合には、上位5大会を加算します。)

10歳以下の種目については、低年齢の怪我、故障の予防のためにランキング対象とはしておりません。

2. ポイント表によるポイント計算

公認ジュニアトーナメントに出場したプレイヤーには、そのトーナメントでの成績に対してポイント表によりポイントが与えられます。

予選があるトーナメントでは、予選の決勝敗者が本戦の1回戦敗者の1ラウンド下の成績と考えてポイントが与えられます。

BYEで2回戦より出場した場合、初回戦で負けたときは1回戦敗者と同じポイント、勝ったときはその後の試合結果によりポイントが与えられます。ただし、ドロー作成時にシードされた選手が1回戦をBYEで勝ち上がり、2回戦で敗れた場合はトーナメントの主催者からの報告により、2回戦敗者のポイントが与えられます。

また、大会の途中で棄権またはリタイアで負けた場合は、勝ち進んだ回戦(ラウンド)のポイントが与えられます。

大会に申し込んでドローに氏名があっても、出場しなかった場合は理由を問わずすべて0ポイントとなります。

ポイント表は毎年、関東ジュニア・トーナメントガイド等により発表されます。

第8章

付 録

1. セットブレイクルール

各セットの第1ゲーム終了後とタイブレーク中は、プレーは連続的でなければならないという規則により、休憩なしでエンドを交代しなければならない。各セットともセットが終了したときは、そのセット最終ゲーム最終ポイントが終了したときから、次のセット第1ゲーム第1ポイントのサービスが打たれるまでの間最長120秒間の休憩をとることができる。(このセット終了後の120秒間の休憩をセットブレイクと呼ぶ。)

2. タイブレークのやり方

(財)日本テニス協会のルールでは、6ゲームオールになった場合、タイブレークを採用しても良いことになっています。

その進め方は次に示す通りです。

(1) サービスのローテーション

a. シングルス (A対B)

第13ゲーム目(または17ゲーム目)をサーブする順番のプレイヤーをAとし、北側に位置していたとする。

第1 A 北から右コートへ
第2 B 南から左コートへ
第3 B 南から右コートへ
第4 A 北から左コートへ
第5 A 北から右コートへ
第6 B 南から左コートへ
ここでコートチェンジ

第7 B 北から右コートへ
第8 A 南から左コートへ
第9 A 南から右コートへ
第10 B 北から左コートへ
第11 B 北から右コートへ
第12 A 南から左コートへ

ここでエンド・チェンジし、第13ポイント以下は第1ポイント以下に置き換え続けられる。

b. ダブルス (A : B 対 C : D)

第12ゲーム目(または第16ゲーム目)にサービスしたプレイヤーをD、第13ゲーム目(または第17ゲーム目)にサーブする順番のプレイヤーをAとし、A : B組が北側に位置しているものとする。

第1 A 北から右コートへ
第2 C 南から左コートへ
第3 C 南から右コートへ
第4 B 北から左コートへ
第5 B 北から右コートへ
第6 D 南から左コートへ
ここでコートチェンジ

第7 D 北から右コートへ
第8 A 南から左コートへ
第9 A 南から右コートへ
第10 C 北から左コートへ
第11 C 北から右コートへ
第12 B 南から左コートへ
ここでコートチェンジ

第13 B 北から右コートへ
第14 D 南から左コートへ
第15 D 南から右コートへ
第16 A 北から左コートへ
第17 A 北から右コートへ
第18 C 南から左コートへ
ここでコートチェンジ

第19 C 北から右コートへ
第20 B 南から左コートへ
第21 B 南から右コートへ
第22 D 北から左コートへ
第23 D 北から右コートへ
第24 A 南から左コートへ

ここでエンド・チェンジし、第25ポイント以下は第1ポイント以下に置き換え続けられる。

- (2) 2ポイント以上の差をつけて7ポイントを取ったプレイヤー(または組)がそのゲームおよびそのセットの勝者となり、スコアは7-6と記録される。6ポイント・オールとなったときは、一方のプレイヤー(または組)が2ポイントの差をつけるまで続けられる。
- (3) タイブレイクゲームでは数字上の得点(0, 1, 2, 3, 4...)が用いられる。
- (4) 各6ポイント終了ごとおよびタイブレイクゲームの終わった時点でエンド・チェンジする。タイブレイクゲーム中のエンド・チェンジは20秒以内とする。
- (5) タイブレイクゲームでプレーした次のセットの第1ゲームは(1)の例で示すとプレイヤーA(ダブルスの場合はA:B組)がレシーバーとなる。
- (6) タイブレイクゲームはボール・チェンジに関し、1ゲームに数える。
- (7) ボール・チェンジがちょうどタイブレイクゲームのときに来た場合は、それを次のセットの第2ゲームまで延ばす。これはニュー・ボールで最初にサーブする権利をあくまでも交互に与えるためである。

3. セルフジャッジのやり方(ガイドライン)

アンパイアのつかない試合形式で選手自身が判定とコールすることをセルフジャッジと言い、次の通り行います。

- (1) サーバーはサーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンスする。
- (2) ネットより自分側のコートについて判定とコールをする。ボールがラインにタッチしたとき、あるいはボールを見失って判定できなかったときは「グッド」である。ボールとラインの間にはっきりと空間が見えたときは「アウト」または「フォール

- ト」である。
- (3) 判定とコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使ってすみやかに行う。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出してアウト、フォールトを示し、手のひらを地面に向けてグッドを示す。
 - (4) 「アウト」または「フォールト」とコールした直後に、プレーヤー自身がグッドと訂正した場合、そのプレーヤーの失点となる。
 - (5) ダブルスの判定とコールは、1人の選手が行えば成立する。しかし、ペアの判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを1人が「フォールト」、パートナーは「レット（イン）」とコールした場合は「(サービスの) レット」となる。
 - (6) クレーコートでは、相手選手にボールマークの確認を要求できる。必要であれば、相手コートへ行ってボールマークを見ても良い。相手と判定が食い違った場合は、レフェリーが最終判定をする。両者が示すボールマークの位置が食い違う場合、あるいは判定できるほどのマークが残っていない場合は最初のコールが成立する。ただし、必要以上にBMI（ボールマークチェック）を申し出る選手には、レフェリーが適切な処置を取る場合がある。クレーコート以外はボールマークのチェックを行うことはできない。
 - (7) サービスのレットはレシーバーがコールする。誤ってサーバーがサービスのレットをコールしたときは、以下の判断が下される。
 - ① そのコールによって、プレーが停止された場合は、サーバーの失点
 - ② そのコールにレシーバーが同意した場合は、サービスのレット
 - ③ そのコールにかかわらず、プレーが続きポイントが終了した場合は、ポイントが成立する。
 - (8) インプレー中、他コートからボールが入ってくるなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。妨害については、ルールブック「試合で起こるQ&A」参照のこと。
 - (9) インプレー中、プレーヤーがラケット以外の着衣、持ち物を相手コート以外の地面に落とした場合は、それが1回目のときはレットをコールしてプレーを停止し、そのポイントをやり直す。ただし、落としたことがプレーに影響を及ぼしていない場合はポイントが成立する。2回目以降、落とすたびにそのプレーヤーが失点する。
 - (10) スコアがわからなくなったときは、双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアがわからなくなったときも、同様に処理する。
 - (11) 試合中、トイレ、着替えなどでコートを離れたいときは、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。
 - (12) 相手選手の言動やコール、フットフォールト等に疑問、あるいは不服があるときは、レフェリーに申し出る。
 - (13) プレーヤー同士で解決できないようなトラブルが起こった場合、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。
 - (14) メディカルタイムアウトを取りたいときは、レフェリーまたはロービングアンパイアに申し出る。トレーナーのいない大会ではプレーヤー自身が手当てをすることができるが、レフェリーまたはロービングアンパイアによって手当を必要とする状態

かどうか確認後、許可を得て3分以内に処置を行う。

- (15) 試合終了後、勝者は大会本部に試合ボールを届け、スコアを報告する。

※本文章はJTAテニスルールブック2006をJTAの許可を得てコピーしたものです。本文章を他の目的でコピーまたは複製しないようにお願いします。

禁 転 載

関東テニス協会並びに同ジュニア委員会の許可なく転載または複製を禁じます。

ジュニアプレイヤーの テニスハンドブック

1983年3月25日 発行

2008年12月1日 第11版発行

発 行 者 関東テニス協会
編 集 者 関東テニス協会ジュニア委員会
印 刷 所 株式会社 功 文 社
〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-3-7
電話 (03) 3234-3236(代)

発 行 所 関東テニス協会
電話 (03) 3374-3008
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-1-2
朝日生命幡ヶ谷ビル 2階